

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 開会宣告
 - ・ 議題の確認
-

1 調査事件

(1) 魚類の陸上養殖に関する取り組みについて

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、7月28日から7月30日の日程で、長崎市及び国立大学法人長崎大学に対して行政調査を行った。いずれの取組も非常に参考となり、大変有意義な調査であったと考えている。
- ・ 本件に係る行政調査報告書については後日配付するが、取り急ぎ、各委員には調査内容の概要を取りまとめた資料を配付させていただいたところである。
- ・ 本日はこれまでの協議や今回の行政調査を踏まえ、調査のポイントとしていた、遊休施設の利活用を軸とした行政による陸上養殖事業への支援及び閉鎖循環式陸上養殖の現状と課題、将来性を中心として、本市における今後の取組の方向性などについて、委員の皆様から御意見やお考えなどを伺ってまいりたいと考えているが、いかがか。（異議なし）
- ・ それでは、各委員から御発言をお願いします。

○茂木 修委員

- ・ 私は長崎大学の先生がおっしゃっていた「出口戦略をまずしっかり描いてから取り組まなければならない」という話が非常に印象に残っている。あくまでも漁業経営を向上させるための取組であって、話題づくりなどではなく、経営がしっかり成り立つという前提で進めなくてはいけないということであった。
- ・ 陸上養殖のデメリットはコストが高いことであるということもおっしゃっており、トラフグ1キロ当たりの金額も試算していたが、海上だと757円で、陸上では電気代や施設のコストがかかるため3,278円と、約4.3倍になるということであった。施設や動力、電気代等の価格を考えた上で出口戦略を練らなくてはいけないということが非常に印象に残っている。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 分かった。経営面もしっかりと意識しなくてはいけないということであった。

○中山 治委員

- ・ 長崎大学の高島水産研究所を調査し、「環境」という部分で、これからの水産振興には、「捕る・育てる」という視点だけではなく、環境への配慮やデジタル化、人材育成、販売ブランド戦略まで一体的に進めることが重要であるということが分かった。
- ・ 特に印象的だったのは、研究や技術開発を先行させるだけでなく、茂木委員がおっしゃったように、最初から市場や消費者のニーズを見据えて、出口戦略を明確にした上で生産や技術を進めていることである。これは函館市の水産振興を考える上でも、大いに参考になることだと感じた。

- ・ 函館市ではマリカルチャープロジェクトなど、持続可能な水産業を目指した取組が進められているが、今後はこれらの取組を単独の事業として終わらせるのではなく、北海道大学、函館市、北海道、地元漁業者、水産関係の企業、飲食・観光業などとも連携して、研究、生産、加工、販売、観光までつなげる仕組みをつくっていくことが重要だと思う。
- ・ 今回の行政調査を通じ、函館には豊富な水産資源や、大学等の研究機関、観光、食文化など、水産業を成長産業へ発展させるための多くの資源があるということを改めて感じたため、今回の調査を生かすことができればいいと思う。

○高橋 千晶委員

- ・ 皆様、大変お疲れ様でした。
- ・ 長崎市役所で概要を伺ったときに、漁業者があまりこのプロジェクトには関わっていないということであったため、ネガティブに捉えているのかと思ったが、新たな雇用や仕事の創出という観点から、陸上養殖という仕事として進めていくことも可能であるということもお聞きし、ポジティブな考え方に切り替えることができた。
- ・ 話の中では、コストの部分が大変であり、遊休施設の利用も一つのやり方だと思うが、改修や維持管理するためのお金もかかり、熱源などのエネルギーの問題もあるということであった。そのような中、長崎市役所の方が、温泉の近くでやるというのも一つの考え方であるとおっしゃったときに、函館にも温泉はあるなどと思った。温泉を使うのか、地熱を使うのかなど、いろいろとやり方を研究する必要があると思うが、一つの有効な方法であり、PRにもなるのではないかとも思うため、地熱の方向性を函館市でも探ってもらえることができればいいと思う。
- ・ 養殖とは別の観点になるが、高島で、使われなくなった高齢者施設を宿泊施設に変えて、大学生の滞り場所や小学生の修学旅行などの施設にも使用する予定であるということをお聞きした。今回見学はできなかったが、すごく夢があり、漁業や養殖を学ぶ子どもや学生たちの拠点になっていくといいなと思った。また、「おさしみシティ」のパンフレットも頂いたが、すごくわくわくするようなパンフレットであったため、ソフト面も水産業と一体的に取り組んでいただければと思う。

○紺谷 克孝委員

- ・ 最初に長崎市で説明を受けたが、陸上養殖がかなり否定的な感じであった。長崎市内でも2か所しか陸上養殖を行っておらず、あまり採算が合っていないというようなお話もあった。その後、高島水産研究所と長崎大学を見学してお話を聞いたが、長崎を含め、西日本は東日本に比較して養殖が非常に盛んな地域でありながらも、なかなか陸上養殖が順調に進んでいないということであり、ペイするかどうかという点も含めて、課題が結構あるのではないかとということがよく分かった。
- ・ 高島水産研究所では、6種類の魚種を養殖されていた。成功している事例もあるが、なかなかそこまで至っていない事例もあり、ばらつきがあると感じた。一生懸命やられているが、全体としては長崎市内で定着していないという感じを受け、研究者の方は優秀であるが、なかなかその優秀さを十分に発揮できる状況になっていないと感じた。
- ・ 大学の講義なども含めて考えると、ブリなどは、養殖物のほうが肉厚で、味も良く、天然物よりもいいというような話もあったため、十分に研究して実施すれば成功する事例も出てくるのではない

かと感じた。キングサーモンは非常に難しい側面もあるが、ブリなどは今後たくさん捕れるのではないかと思うため、長崎より函館のほうが適しているのではないかと感じている。

- ・ 長崎でも陸上養殖があまり順調に進んでいないという中で、仮に函館でそれを目指すといったことを考えると、温泉などの熱源の利用等も含め課題があるのではないかと思う。
- ・ 大学や研究所では北海道に関わる人が多く、函館はいい環境にあるということを感じたため、今後、北海道の中でも函館は成長株の一つであるということで、行政も含めて頑張れば少し前進していくのではないかと感じた。

○出村 ゆかり委員

- ・ 皆様の意見もおっしゃるとおりだと思う。
- ・ 長崎市役所で調査した際にも発言したが、紺谷委員がおっしゃっていたように、実際に陸上養殖を実施しているところは2事業所であり、成功している1事業所も独立採算ではなく、木材加工を行っている企業で、資材面でコストダウンができるということであった。また、売り手を固定し、収入が安定しているということで、これは成功するだろうと思った。資金力と根性がなければ、なかなか簡単には始められないということも感じ、研究ばかりでは先に進むことはできないが、小さく始めるというところからなのではないかと思う。売り手を決める、需要のある魚種に絞る、コストがからず成長の早い魚種を選択するなどといった点を踏まえ、小さく始めていくことがいいのではないかと感じた。

○見付 宗弥委員

- ・ 沿岸漁業と陸上養殖のうち、陸上養殖はこれから増えていくが、あくまでも沿岸漁業が中心だというお話もお聞きした。
- ・ ブリやマグロなどの大きい魚は陸上養殖に向いていないということであったが、茂木委員もおっしゃったように、出口戦略をどのように打っていくかということで、地域の特産品を作るようなイメージを持ち、魚種を選んで陸上養殖をやっていくということでは可能性はあるというような話をお聞きし、陸上養殖の現状がよく分かった。
- ・ 長崎市役所で御説明いただいた方が、長崎市役所には水産一筋の専門の方がいるとおっしゃっていた。函館にも北海道大学水産学部があるため、水産の専門の人を継続的に配置するようなことを函館市でも取り組んでいけるのではないかと思う。

○島 昌之委員

- ・ 非常に印象に残ったのは、養殖事業そのものも大事であるが、それをどのようにして販売につなげるかということである。魚を作るのはいいが、どのようにして販売するかということが大事であり、売れなければ経営が成り立たないということで、食の拠点整備の必要性や人材育成など、様々な工夫についてお話しいただいた。養殖事業を始めるに当たっては出口戦略をしっかりと押さえていかなければならず、経営が成り立つような仕組みづくりも併せて考えていくことが必要なのではないかと感じた。

○茂木 修委員

- ・ 長崎市役所で漁業の状況をお聞きしたときに、漁業者の数は減ってきているが、漁獲量が横ばいになっているため、所得自体が減っているわけではないということで、函館の状況と長崎の漁業の

状況は異なるという印象を受けた。300種類の魚種が漁獲されるということもあり、道南の地域事情とは異なる状況であったため、養殖の必要性など、養殖に対する考え方も違うのかなと受け止めた。

○芝井 穣委員

- ・ 先ほど見付委員からお話があったように、私も古くから関わってきたが、長崎市役所の説明員の方は女性で、原稿なしでやり取りできることがすごいと感じた。
- ・ 漁港が一番多いのは北海道であるが、2番目は長崎である。そのため、地域的には異なるが、街のつくりなど、形態で似ている部分があり、水産に対する課題には似た部分があるのかなと思っていました。水産振興計画は函館でもつくっているが、茂木委員からもお話があったように、長崎の計画は「売る」ということをパッケージで考えるということで、長崎市役所の方も、長崎大学の先生もおっしゃっていた。高島水産研究所の先生は、1種類ではなく6種類で、複数でやってみて何が一番合うのかということも研究していらっしゃった。また、高島水産研究所の先生から、北海道の研究者とも深いつながりがあるということをお聞きし、少し感動した。
- ・ 漁業や水産業というものは、やり方によっては伸び代のある産業だと思っている。先日の分科会で、イカ釣りの漁業者がだんだん減ってくるというような話が高橋委員からもあったが、この辺りの部分をカバーできるのは養殖事業であり、一つの解決策だと思っている。そのため、本来の課題から少しずれたかもしれないが、昨年と今年で、函館にはない、いろいろな切り口で行っている研究を見ることができ、すごく参考になった。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 一通りお聞きしたが、さらに何か御発言あるか。

○紺谷 克孝委員

- ・ 芝井委員が函館と長崎には似ているところもあるとおっしゃっていた。全体的に言えば、長崎や九州などは養殖が非常に盛んであり、その中で陸上養殖も研究しているという状況だと思う。しかし、北海道の場合はずっと「捕る漁業」が中心であったが、温暖化などの影響で、イカやサケなども含め、捕る漁業に頼れなくなっているという状況がある。そのため、長崎や西日本より、陸上養殖も含めて、養殖をもっと中心に考えていかなければならない時期に直面しているのではないかと思う。この問題は西日本よりさらに北海道や東北のほうが切実だと思うため、長崎以上に北海道でもこれからもっと研究しないと、漁業が育っていかないのではないかと思う。
- ・ 先ほどもお話があったが、漁業をやるにしても、小さくても大きくてもいいので企業がしっかりと受皿をつくってやっていくことも重要であり、それが雇用などにもつながると思う。
- ・ 北海道や函館のほうが、陸上養殖も含め、養殖という面でより切実ではないかと感じた。

○茂木 修委員

- ・ 長崎大学の先生から、消費者の魚離れが進んでいる中、漁業者の所得を考えると、海外に販路を求めていくということを今後考えたほうがいいという話をお聞きした。海外に売る場合には環境に配慮をしなければいけないということであったが、海面養殖ではなかなか環境に配慮することが難しいため、陸上養殖、閉鎖型の施設で育てた魚でなければ海外で売ることがなかなかできないのではないかとされており、そのような観点からも、今後、陸上養殖という視点は非常に大事になってくるのだろうと思う。

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 皆様、大変有意義な御発言であり、今後、必ずいろいろな形で生かされていくのではないかと思います。
 - ・ そのほか、御発言あるか。（なし）
 - ・ 次に、今後の調査の進め方について各委員に御相談だが、正副としては、次回の委員会でこれまでの調査や本日いただいた御意見等について取りまとめたものを正副で作成させていただき、今後の取組の方向性などについて皆様と協議を行ってまいりたいと考えているが、そのような進め方でよろしいか。（異議なし）
 - ・ 本件については、今後の取組の方向性などを整理するため、委員会の閉会中継続調査事件とすることよろしいか。（異議なし）
 - ・ 閉会中継続調査事件とすることに決定した本件については、先ほどの理由をもって議長に申し出たいと思う。これに御異議ないか。（異議なし）
 - ・ 議題終結宣告
-

(2) ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書について

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 議題宣告
 - ・ 本件については、北海道森林・林業・林産業活性化促進議員連盟連絡会から、森林吸収源対策の積極的な推進による2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、国に対し意見書の提出をお願いしたい旨の要望書が提出された。正副としては、要望書の趣旨が理解できるものであることから、本委員会から意見書案を提出したいと考えている。意見書案については、既に委員の皆様へ配付している。
 - ・ 配付のとおり、意見書案を本委員会から議長に提出したいと思うが、これに御異議ないか。（異議なし）
 - ・ 条項、字句の修正については、委員長に一任願いたいと思うが、これに御異議ないか。（異議なし）
 - ・ そのほか、本件について各委員から何か御発言あるか。（なし）
 - ・ 議題終結宣告
-

2 その他

○委員長（池亀 睦子）

- ・ 2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時29分散会